

<2006年度研修実績>

1) 【ICLS講習会が実施されました】

2007年3月3日(土)日本救急医学会認定、コースディレクター呉共済病院石川雅巳先生によるICLS講習会が実施されました。

今回は、主に研修医を対象に行い、指導者は全て共済病院のスタッフで行うことができました。今後も救急蘇生講習会を予定しています。ホームページでご確認下さい。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 副院長
中西 成元



2) 【ADR研修が実施されました】

2007年3月5日(月)、6日(火)シミュレーション・ラボセンターにおいて、初めてADR(医療コンフリクトマネジメント)研修を行いました。講師にはADRの第一人者である早稲田大学大学院法務研究科教授和田仁孝先生と大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師中西淑美先生をお招きし、ADRについての総論とロールプレイによる実習による充実した研修が行われました。

医療コンフリクトに対するマネジメントの手段としての、メディエーションの意味を学び、メディエーションが当事者同士の対話を促進し、合意形成に至らせることを体験することを学ぶことができました。メディエーションは単なる苦情対応でも、心のケアでもない安全で質の高い医療を拓くための手段であることも学ぶことができました。今後さらに多くの医療者にメディエーションマインドを養っていくため、研修を重ねたいと思っております。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 副院長
中西 成元



3) 【KYT・メディカルセーフター研修会が行われました】

2月16日、KYT(危険予知トレーニング)・メディカルセーフター安全管理研修の1日コースが行われた。医療に安全は欠かせない。しかし、安全というものは存在しない。あるのは危険である。医療現場に、無数に存在する危険をいかに察知し、それを避けるかが問われている。この能力は自らの経験により高められる。しかし、人間は他の人の経験から学ぶことができる能力を持っている。日々多くのヒアリハットが生じている。そのヒアリハットより事故の最も重要な原因を分析する方法の一つがメディカルセーフターである。今回の研修では日々経験される事故を分析し、その要因となっている危険をいかに予知するかを訓練することを目的とした。50余名の受講者が武蔵野赤十字病院専従リスクマネージャー杉山良子氏によりKYTを、テプコシステムズ医療安全推進担当田島英明氏によりメディカルセーフターの指導を受けた。8時間の受講時間があったという間に過ぎる充実した研修となった。今後も様々な研修を予定している。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 副院長
中西 成元



4) 【第1回人工呼吸器トラブルシューティング研修会が行われました】

2007年1月25日(木)、シミュレーション・ラボセンターにおいて第1回人工呼吸管理トラブルシューティング研修会が虎の門病院呼吸器科医師川畑雅照医師の指導により開催されました。

高齢社会になり、医療技術の進歩も相まって人工呼吸管理を必要とする患者さんが増え続けています。今回、人工呼吸器に生じるトラブルにいかにか速やかに、適切に対応できるかを講義と共に、シミュレーターを使用し7個のシナリオを用いて実習する研修と致しました。終了後の感想から若干の問題はありましたが概ね満足して頂けた研修となりました。さらに、シナリオの充実と指導者法の工夫をはかり次回の研修につなげてまいります。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 副院長
中西 成元

